

2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月30日

上場会社名 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4927 URL <https://www.po-holdings.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 郷史
 問合せ先責任者(役職名) 取締役財務担当 (氏名) 藤井 彰 (TEL) 03-3563-5517
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	125,814	△24.0	9,222	△63.7	7,775	△68.1	1,565	△90.2
2019年12月期第3四半期	165,530	△10.4	25,411	△21.4	24,370	△24.3	15,898	△29.0

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 1,476百万円(△90.9%) 2019年12月期第3四半期 16,271百万円(△24.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	7.08	7.07
2019年12月期第3四半期	71.88	71.79

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第3四半期	197,612	166,867	84.2	752.55
2019年12月期	227,256	191,069	83.9	862.00

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 166,480百万円 2019年12月期 190,690百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	35.00	—	81.00	116.00
2020年12月期	—	35.00	—		
2020年12月期(予想)				15.00	50.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	175,000	△20.4	10,000	△67.9	8,500	△72.3	1,200	△93.9
								5.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年12月期3Q	229,136,156株	2019年12月期	229,136,156株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	7,915,453株	2019年12月期	7,916,253株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年12月期3Q	221,220,063株	2019年12月期3Q	221,196,075株

(注) 2020年12月期3Qの期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、役員報酬BIP信託が保有する当社株式 (148,600株) が含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2020年1月1日～2020年9月30日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による外出自粛・休業要請等に加え、4月には緊急事態宣言発出の影響により経済活動は著しく制約を受け、景気は急速に減退し極めて厳しい状況となりました。5月に緊急事態宣言、6月には国内移動制限が解除されたこと等に加え、足元では政府による経済対策の効果もあり、消費活動は4月、5月を最悪期として、徐々に持ち直しの兆しはありますが、依然として感染再拡大の懸念は拭えず、当面の間は経済を下押しする圧力が残る中、厳しい状況が続くと見込まれます。

国内化粧品市場においては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴うインバウンド需要の大幅減少、店舗休業や外出自粛期間に冷え込んだ消費マインドの影響が見受けられ、先行きは不透明な状況が続いておりますが、新しい生活様式の定着が進む中で、コロナ禍がもたらした非接触型の行動変容が追い風となり、利便性の高いサービスとしてECをはじめとする通信販売チャネルの重要性はますます高まっております。

海外化粧品市場においても、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響等により、先行き不透明な状態が続いておりますが、中国市場では経済活動の再開により消費はコロナ禍以前まで回復に転じております。

このような市場環境のもと、2017年からスタートした4ヶ年中期経営計画（2017年から2020年）に基づき、国内のさらなる収益性向上と海外事業での黒字化、次世代の成長ブランド創出を達成すべく、取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は次のとおりとなりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比24.0%減の125,814百万円となりました。営業利益は売上高減による売上総利益減少により、前年同期比63.7%減の9,222百万円、為替差損等の営業外費用を計上したことにより経常利益は前年同期比68.1%減の7,775百万円となりました。以上の結果に加え、Jurliqueブランドに係る固定資産の減損損失の計上及び新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による緊急事態宣言を受けて実施した臨時休業に伴う費用を特別損失に計上した影響により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比90.2%減の1,565百万円となりました。

〔業績の概要〕

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	165,530	125,814	△39,715	△24.0
営業利益	25,411	9,222	△16,189	△63.7
経常利益	24,370	7,775	△16,595	△68.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,898	1,565	△14,332	△90.2

〔セグメント別の業績〕

売上高（外部顧客への売上高）

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	161,794	122,295	△39,498	△24.4
不動産事業	1,979	1,763	△216	△10.9
その他	1,756	1,755	△0	△0.0
合計	165,530	125,814	△39,715	△24.0

セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	24,625	8,423	△16,201	△65.8
不動産事業	878	669	△209	△23.9
その他	113	37	△76	△66.8
セグメント利益の調整額 (注)	△205	92	297	—
合計	25,411	9,222	△16,189	△63.7

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費などを連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、P.10～11「1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報(注2)」をご覧ください。

(ビューティケア事業)

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、海外ブランドとして「Jurlique」「H2O PLUS」を、育成ブランドとして「THREE」「DECENCIA」「Amplitude」「ITRIM」「FIVEISM×THREE」を展開しております。

POLAブランドでは、市場からのニーズが高いエイジングケア・美白を中心とした高付加価値商品の投入、ならびに基本活動であるカウンセリング・エステに注力することで、継続率の高い顧客の獲得を目指しています。国内では、コロナ禍にあつて、店内衛生管理・感染防止対策を徹底し、既存客を中心に来店回復を図っております。9月に発売したポーラ最高峰エイジングケアシリーズの新B.Aローションは、好調に推移しております。また、各ショップでは、オンライン上のカウンセリングやワークショップ等の取組みを展開し、オンライン・オフライン両軸で顧客サービス拡充を進めております。海外では、特に中国EC、韓国免税店が高成長を継続しています。また、中国ではポーラカウンセリング・エステへの関心・興味が高まっており、積極的な出店による顧客拡大に取り組んでおりますが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による売上減少の影響が大きく、POLAブランドは前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

ORBISブランドでは、高収益事業へと再成長を遂げるため、ブランド差別性の創出による存在感の向上に取り組んでおります。7月には、自分の肌を知り、本来の力を引き出す体験ができる『SKINCARE LOUNGE BY ORBIS』が表参道にオープンし、ブランドメッセージ「ここちを美しく。」の世界観を体現する商品を中心としたコミュニケーションや、一貫した市場発信をより一層強化しております。エイジングスキンケアシリーズ「オルビスユー」や、肌への機能が確認された特定保健用食品「オルビス ディフェンセラ」、第3の象徴商品のクレンジング「オルビス オフクリーム」が、新規顧客の獲得に貢献しました。また、アジア圏における顧客接点の拡大によるブランド認知率の向上に取り組んでおります。一方で、戦略的に顧客ターゲットの絞り込みに取り組んだ結果、既存顧客が減少しました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響が生じてからは、新しい生活様式を見据え、主にスマートフォンアプリを活用したECチャネルへの誘導や、オンラインカウンセリングによる商品提案に積極的に取り組んでおりますが、店舗の臨時休業等の対応により、ORBISブランドは前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

海外ブランドについては、Jurliqueブランドは豪州とアジア、H2O PLUSブランドは本拠地である米国での事業成長を目指した取り組みを行っております。Jurliqueブランドでは、自社ECチャネルの売上伸長や中国国内におけるトラベルリテール市場の復調など、一部チャネルにおいては営業活動が好調に推移していますが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の第2波の影響に伴い、豪州の一部直営店舗や大手百貨店の店舗において再び営業停止をせざるをえない事態となり、前年同期を下回る売上高となりました。費用面では積極的なコスト削減に取り組んだ結果、営業損失が縮小する結果となりました。H2O PLUSブランドでは、オルビス社による全面的なサポート体制の下、ECチャネル戦略の改革を推進しております。足元では、米国商戦月(9月)においてCleanコンセプトを全面訴求したプロモーションを展開、リピート購入を促進して前年同期を上回る売上高となりました。一方、ホテル向けアメニティ事業では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響による出荷減により、前年同期を下回る売上高となりましたが、積極的なコスト削減に取り組んだ結果、営業損失は縮小する結果となりました。

育成ブランドでは、DECENCIAブランドのECチャネルにおける新規顧客獲得の好調や、2018年にローンチしたAmplitudeブランド、ITRIMブランド、FIVEISM×THREEブランドの売上成長がありましたが、THREEブランドにおける新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による売上減少の影響が大きく、前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は122,295百万円（前年同期比24.4%減）、営業利益は8,423百万円（前年同期比65.8%減）となりました。

（不動産事業）

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第3四半期連結累計期間は、一部テナントの退去の発生により、前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は1,763百万円（前年同期比10.9%減）、営業利益は669百万円（前年同期比23.9%減）となりました。

（その他）

その他に含まれている事業は、ビルメンテナンス事業であります。

ビルメンテナンス事業は、主にビルの運営管理を行っております。当第3四半期連結累計期間は、工事受注減少により、前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は1,755百万円（前年同期比0.0%減）、営業利益は37百万円（前年同期比66.8%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ29,644百万円減少し、197,612百万円（前連結会計年度末比13.0%減）となりました。主な増減項目は、余剰資金の運用による有価証券の増加4,258百万円、商品及び製品の増加1,090百万円、ソフトウェアの増加741百万円により増加し、一方で現金及び預金の減少19,076百万円、受取手形及び売掛金の減少6,085百万円、投資有価証券の減少3,806百万円により減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ5,441百万円減少し、30,744百万円（前連結会計年度末比15.0%減）となりました。主な増減項目は、支払手形及び買掛金の減少865百万円、未払金の減少に伴う流動負債「その他」の減少3,948百万円、未払法人税等の減少916百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ24,202百万円減少し、166,867百万円（前連結会計年度末比12.7%減）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上1,565百万円により増加し、一方で剰余金の配当25,678百万円により減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の通期業績予想につきましては、不確定要素が多い中、2020年4月28日時点において入手可能な情報及び同日時点における業績推移に基づき、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による影響を織り込んだ通期の連結業績見通しを算定し、公表しておりました。同公表数値の達成に向けて、環境変化に対する適応と戦略的なコスト構造改革として、イベント、新商品発表会のオンライン化や広告のデジタルシフトによる効率化を進めるなどした他、国内出店計画の見直しや新規スタッフの採用凍結などあらゆる手段を講じ、費用コントロールに取り組んでまいりましたが、当第3四半期の実績は当社の想定以上に回復が緩やかとなったこと、また、第4四半期以降も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が見込まれる中で、急激な回復は見通しづらいことから2020年4月28日に発表した公表数値より、以下のように変更することといたしました。

2020年12月期通期連結業績予想の修正（2020年1月1日～2020年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 190,000	百万円 19,000	百万円 16,500	百万円 8,400	円 銭 37.97
今回修正予想(B)	175,000	10,000	8,500	1,200	5.42
増減額(B-A)	△15,000	△9,000	△8,000	△7,200	△32.55
増減率(%)	△7.9	△47.4	△48.5	△85.7	△85.7
参考 前期実績 (2019年12月期)	219,920	31,137	30,630	19,694	89.04

(参考情報)

前期累計期間実績

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	百万円 52,440	百万円 110,247	百万円 165,530	百万円 219,920
営業利益	6,773	16,236	25,411	31,137
経常利益	6,525	15,561	24,370	30,630
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,157	9,938	15,898	19,694

前期会計期間実績

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	百万円 52,440	百万円 57,806	百万円 55,282	百万円 54,390
営業利益	6,773	9,462	9,175	5,725
経常利益	6,525	9,035	8,809	6,259
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,157	5,781	5,959	3,796

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,548	47,471
受取手形及び売掛金	21,624	15,538
有価証券	24,518	28,777
商品及び製品	13,684	14,774
仕掛品	853	970
原材料及び貯蔵品	5,163	5,159
その他	11,617	6,001
貸倒引当金	△1,074	△46
流動資産合計	142,935	118,647
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,866	16,673
土地	14,094	13,963
その他（純額）	12,026	10,590
有形固定資産合計	43,987	41,227
無形固定資産		
商標権	31	29
ソフトウェア	8,019	8,761
その他	98	97
無形固定資産合計	8,149	8,887
投資その他の資産		
投資有価証券	20,301	16,495
その他	12,056	12,606
貸倒引当金	△173	△252
投資その他の資産合計	32,184	28,849
固定資産合計	84,320	78,964
資産合計	227,256	197,612

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,129	2,263
未払法人税等	1,374	458
賞与引当金	1,490	2,332
ポイント引当金	2,872	2,422
その他の引当金	98	75
その他	17,657	13,709
流動負債合計	26,621	21,261
固定負債		
その他の引当金	88	115
退職給付に係る負債	3,872	4,045
資産除去債務	2,153	2,152
その他	3,449	3,169
固定負債合計	9,564	9,483
負債合計	36,186	30,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	80,785	80,785
利益剰余金	100,915	76,802
自己株式	△2,652	△2,652
株主資本合計	189,047	164,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△62	△103
為替換算調整勘定	2,047	2,022
退職給付に係る調整累計額	△341	△374
その他の包括利益累計額合計	1,643	1,545
新株予約権	243	243
非支配株主持分	134	143
純資産合計	191,069	166,867
負債純資産合計	227,256	197,612

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	165,530	125,814
売上原価	25,686	20,504
売上総利益	139,843	105,310
販売費及び一般管理費		
販売手数料	36,858	27,012
販売促進費	16,972	13,320
広告宣伝費	8,550	7,339
給料手当及び賞与	15,107	14,433
賞与引当金繰入額	1,980	1,942
ポイント引当金繰入額	2,657	2,142
その他	32,304	29,896
販売費及び一般管理費合計	114,431	96,087
営業利益	25,411	9,222
営業外収益		
受取利息	147	137
その他	156	132
営業外収益合計	304	269
営業外費用		
支払利息	62	67
投資有価証券売却損	—	367
投資有価証券評価損	280	—
為替差損	830	246
支払補償費	100	946
その他	71	89
営業外費用合計	1,345	1,716
経常利益	24,370	7,775
特別利益		
補助金収入	—	723
その他	0	39
特別利益合計	0	763
特別損失		
固定資産除却損	182	148
減損損失	0	2,168
投資有価証券評価損	—	80
新型コロナウイルス感染症関連損失	—	1,271
その他	3	35
特別損失合計	186	3,704
税金等調整前四半期純利益	24,184	4,834
法人税、住民税及び事業税	6,073	3,584
法人税等調整額	2,214	△326
法人税等合計	8,287	3,258
四半期純利益	15,896	1,576
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,898	1,565

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	15,896	1,576
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	△41
為替換算調整勘定	114	△25
退職給付に係る調整額	267	△32
その他の包括利益合計	374	△99
四半期包括利益	16,271	1,476
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,276	1,467
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	8

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	161,794	1,979	163,774	1,756	165,530	—	165,530
セグメント間の内部 売上高又は振替高	47	380	427	1,600	2,028	△2,028	—
計	161,841	2,359	164,201	3,356	167,558	△2,028	165,530
セグメント利益	24,625	878	25,503	113	25,617	△205	25,411

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス事業であります。なお、「その他」を構成していた医薬品事業については、当社の保有する株式会社ポーラファルマの全株式を2019年1月1日付で譲渡したことに伴い、連結の範囲から除外しております。
- 2 セグメント利益の調整額△205百万円には、セグメント間取引消去2,802百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,008百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	122,295	1,763	124,059	1,755	125,814	—	125,814
セグメント間の内部 売上高又は振替高	57	390	448	1,264	1,713	△1,713	—
計	122,353	2,154	124,507	3,020	127,527	△1,713	125,814
セグメント利益	8,423	669	9,092	37	9,130	92	9,222

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス事業であります。
- 2 セグメント利益の調整額92百万円には、セグメント間取引消去2,900百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,808百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに所属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ビューティケア事業において2,168百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。